

## セミナーや個別相談会で取り上げられた質問を一問一答形式でまとめました。

質疑内容	Q	A
医学部卒後の進路相談①	医学部卒業後周りの方はどのような進路を選択されていますか？	臨床医、研究医、産業医、製薬企業、厚労省の医系技官、保健所、PMDA(医薬品医療機器総合機構)、AMED(日本医療研究開発機構)、WHOなどがあります。
医学部卒後の進路相談②	医療とIT、国際機関、厚労省などでのキャリアに興味があります。WHOや厚労省に就職した場合に、自分がやりたい仕事ができるか不安です	卒業時点でやりたい方向性が明確であれば、臨床勤務を経ずに自分の希望に特化した方面に進む選択肢もあります。基本的には多くのフィールドにおいて、臨床での勤務経験が後々のキャリアにつながる人が多いことから、臨床経験をもつことも大切だと考えられます。
医学部卒後の進路相談③	臨床医になるかどうか悩んでいます。	同様の悩みをもつ学生を数名見ました。臨床経験がなくコンサル会社等へ就職する人もいますが、臨床経験が強みであることを再認識して、数年で臨床に戻ってくる人が多いように思います。最低限初期研修まで受けてから他を考えたほうが良いですし、それでも全然遅くないと思います。他業界は個々のセンスや能力の高い方との勝負になりますので、臨床経験は大きな強みです。
薬学部卒後の進路相談	進学か就職かを迷っています。創薬に携わる、という点は一緒ですが、異なる点はどのようなところでしょうか？	一長一短です。企業は女性が勤務する上でサポート体制が整っています。その一方で、自分のやりたい研究テーマにこだわるのであればアカデミアのほうが自由度が高いと考えられます。
就職①	どのように就職先をきめましたか？	決め手の一つとして、海外留学の機会はありませんでしたが、海外勤務があることを希望し、外資系を考えました。
就職②	就職に向けて頑張るべきことは何ですか？	どの程度研究してきたか、データを自分で解釈できているか、自分で考えられているか、は面接でみられると思います。その他には、協調性も必要です。
就職③	どのように学位取得から就職活動へのステップを踏めば良いでしょうか？	転職しなくてはならなくなった時に、オファーがあった所が自分に合う就職先と考えてそこに身を委ねるようにしました。考えすぎるとわからなくなる部分もあるため、とにかく大量に応募することで方向性から来てくれというところを探そうにしてみました。
資格	MBA(Master of Business Administration:経営学修士)、MPH(Master of Public Health:公衆衛生学修士)などの資格取得に興味がありますが、必要でしょうか？	資格取得は手段であって目的ではありません。進路を決める際は、どのようなバックグラウンドで仕事(臨床業務・学術研究・論文発表など)をしてきたのかが、資格よりも重要です。医療の経験が不十分なら、医療のコンサルト業務に従事することはできません。学部生の間は医学・薬学をまずよく学ぶことが大切です。
起業	起業に興味があります。	起業は課題解決の手段です。起業する際にもお金は非常に大切です。稼ぐ手段としても臨床経験は重要と考えられます。
企業における学術活動①	企業では、論文を出せますか？	製薬プロジェクトが成功する可能性が高い場合は特許取得を優先するため論文発表に制約がかかる場合があります。ただし最終的には論文発表が可能です。
企業における学術活動②	企業に就職すると研究ができなくなるのではという危惧はありませんでしたか？	もともと探索部門で応募していたので当初は危惧していませんでした。ところが、採用後1年以内に研究以外の業務が増え、直接実験には携われない立場になりました。ただし、直接の研究以外にいろいろな部門を回ることが向いていることもその経験の中で知ることができました。
企業における学術活動③	企業では研究テーマを選べますか？	ある程度バックグラウンドを考慮してもらえますが保証はありません。どの領域に注力するかは企業上層部の判断によります。部署の配置換えももちろんあり得ます。ただし、部署替えは人を良く見ているなという印象で、適材適所なのだと納得の人事が多いです。企業によっては研究員に自由研究費用があてがわれる場合があります。それを利用してボトムアップで自分のやりたいことに繋げることもあり得るのではないのでしょうか。
企業における学術活動④	企業毎に色が大きく異なるのでしょうか？	そうだと思います。ただし、他の企業の情報はあまり入ってきません。産産連携はあまりありません。上層部が外国人、日本人で特色の差が出るかもしれないと考えられます。
臨床医として①	臨床現場では、どのようなことを感じていますか？	がん治療の現場では死に関わることで多く辛いことも多いのですが、その一方、免疫チェックポイント阻害剤のような新規治療法の治療効果を大きく実感できることも多くやりがいがあります。
臨床医として②	自分に合った診療科をどう選べばよいですか？	アンテナを張ることが重要です。人気のある領域はスタートダッシュで負ける可能性があるため、未開の領域もお薦めです。

開発職として	開発職の面白いところや醍醐味は何ですか？	開発の方向性を決めたり、ガイドラインに反映させたり、例えばその国に合致するような必須項目を定めて(薬が)承認されやすくなりすることが面白いところです。日本だと高齢者に着目して解析を追加で行うなど、いろいろな展開を提案、実施してきました。
MSLとは？	研究のバックグラウンドを活かす上でMSL(メディカル・サイエンス・リエゾン)はどのように活用されるのでしょうか？	現在MSLは業務内容がより確立され改善も進んでいますが、営業要素が以前より強くなっていると考えられます。
産学連携とは？	日本のベンチャーおよびアカデミア創業は基礎研究の質はあるのに適所への投資がうまくいっていないと聞いています。産学のコネクションに携わることで創業に貢献できるのでしょうか？	企業のアライアンスマネージャーが有望なキャリアと考えられます。基礎研究を理解し、英語でのコミュニケーション力も必須です。日本はまだこの分野での競争力が低く大学側での企業とシーズニーズマッチングに改善が必要です。京大でもすでに動き始めており、現時点で一緒に始められることも多いと考えられます。
ワークライフバランス・家族との関係①	女性が、家族を持って海外で働くのは難しいですか？	パートナーとの十分な話し合いが必要です。
ワークライフバランス・家族との関係②	ワークライフバランスについてどのようにお考えになっていますか？	あまり意識したことがありません。その時々で、こなさなければならないことを分担しています。パートナーのキャリア形成も重要と考えています。相手に押し付けるのではなく、必要に応じてアウトソーシングを考えるのも選択肢になります。
留学・外資系就職・英語①	英語の習得方法について。	仕事で必要に迫られて、英語を使わざるをえない状況でしたので、毎日勉強しました。
留学・外資系就職・英語②	日本で外資系の会社に勤めた場合には、海外でのバックグラウンドをどのように活かせるのでしょうか？	外資系で研究部門の上司がドイツ人でやりとりは全て英語という職場を体験しました。英語を話せることは国内でも十分な強みになります。
留学・外資系就職・英語③	海外留学は必要でしょうか？	若いうちに行くのは良いと思います。日本人は信用があるため、かなりの確率でインタビューに呼んでもらえると聞いたことがあります。
キャリア変更①	どのようにポストを見つけましたか？	運もあったと思います。目の前のキャリアをしっかりと積むことで、次のキャリアにつながりました。直接の面談はありませんでしたが、共同研究などで目に触れる機会があったなどのつながりからポストのオファーがありました。
キャリア変更②	キャリア変更のきっかけや、その時々思い、決め手は何ですか？	働く場所は変わっていますが、がんの薬物療法の開発という点では一貫しています。その時々、一生懸命に取り組んだ結果、行き詰ったりした際に次のキャリアの選択肢があり、考えたりしてきました。
キャリア変更③	キャリアを変更して新しい環境になったときに心がけておられることは何ですか？	努めて人に会うことを心掛けました。特にアメリカではメールを送って30分時間を取ってもらい話を聞いてもらうなど積極的にコンタクトを取りました。
キャリア変更④	大学の特定教員などで任期付きのポストが切れる場合の身の振り方はどのようにすべきでしょうか？	選択肢として大学で類似のポジションを探す、企業に戻る、アライアンスマネージャーとしての活動を国内外で広げる、起業するなど選択肢は様々であると考えられます。これまで急に部門が閉鎖された場合は、数ヶ月ほどの期間で次の職場を探してきました。
キャリア変更⑤	どのように転職活動を進めるのが良いでしょうか？アカデミアにずっと身を置いてきたことによる不利益はあるのでしょうか？	順々に募集に応募することが基本になります。募集に出ていない求人もあるため転職エージェントの利用もお勧めできます。出してみないとわからないため、落とされることを恐れずに就職先への応募は数を出すべきです。一概にアカデミアしか知らないからダメということもありません。またどのような業務でも全力でやるというスタンスが信頼関係の醸成のために重要です。
キャリア変更⑥	製薬会社に就職が決まりました。いずれアカデミアに戻りたいと考えています。どのようなことに気を付ければよいですか？	企業からアカデミアに戻る際は、アカデミアという場で自分にどのような強みがあるのかをよく考える必要があります。それを企業にいる間に身に付けてください。
学生時代の過ごし方①	学生時代に打ち込まれていたラグビーが後々役に立ったという側面はありますか？	同じラグビー経験者ということで仕事を任せてもらったり、チームプレーとしての振る舞いであったり、後から考えると役に立っていたと思われることが複数あります。
学生時代の過ごし方②	学生時代どのような経験を積んでおくのが良いですか？	集団で何かを行う、という経験を積んでおくが良いと思います。適材適所、自己と他者をどのように使うかというトレーニングは実社会で役立ちます。チームとしての目標を明確にしてどのように達成するかを考える上で役立ったと思います。